

まちを知ることから
始めよう



地域の防災力向上をめざして

もしもは突然やってくる。
安全・安心なくらしのために地図を通して
防災を身近なところから見つめ直してみませんか？

災害と地図との 切っても切れないカンケイ



防災に大切なのは 「自分たちの地域と命は自分たちで守る」意識

日本に暮らす限り、地震や台風などの自然災害は避けられません。さらに近年では豪雨や台風などの水害が多発しています。そんな“もしも”に備え、常日頃から防災の意識はお持ちですか？大規模な災害が発生した場合、自治体の救助活動には限界があります。これからは「自分たちの地域と命は自分たちで守る」という意識を持つことが大切です。



ポイントは“事前準備”と“情報共有” そのための必須アイテム「地図」を活用しよう

災害が起きたとき、日頃から正しい備えをしておけば、安全性は大きく変わります。備えのためにぜひ活用して欲しいのが「地図」です。「地図」を使えば、ある地域の自然災害による被害範囲や被害程度、避難場所や避難経路などを“見える化”することができます。また、電力が使えない場面では、通信手段であるスマートフォンのバッテリーを温存する必要も出てきます。そういう時のためにも紙の地図に情報をまとめておくと便利です。

もしもの時、慌てないために

地域やご家庭であらかじめどんな行動をとるのか話し合い、共有しておきましょう。通学中に災害が起きたらどこに避難する？携帯電話が使えないときの連絡手段は？周囲の人たちと災害に対して共通の認識を持つことが、お互いを助け合い、身を守る第一歩につながります。



防災活動の第一歩は地図を使った「まち歩き」から

地域の危険な箇所や避難経路、避難場所なども防災マップに記入して地域やご家庭で共有することで、日頃から防災意識を高めることができます。お住まいの地域に関する理解を深めるためにも、まずは「まち歩き」をしてみましょう。机の上で地図を眺めるだけでは気付かないこともたくさんあります。ぜひご自分の足で歩いて、目で見たことを地図に書き記してみてください。



1. まち歩きの前に…周囲の災害ポイントをチェックしよう

自宅や職場周辺のハザードマップを入手したら、身近に潜む危険をチェックしましょう。

必ず確認したいのが「発生しうる災害の種類」と「被害想定区域」です。
水害が多い？土砂災害が起きるかも？それとも複合的な災害？
まずは自身を取り巻く危険を確認しましょう。



ハザードマップとは

自然災害が発生したときに、どこでどのような災害が起こるかを予測し地図上に示したものです。風水害・土砂災害・火山噴火など、災害ごとに用意されており、市区町村の窓口や国土交通省のハザードマップポータルサイトで入手できます。



2. 避難経路を決めるために危険箇所を確認しよう

避難経路を考える時は、自然災害の危険区域のほか、ブロック塀やガラス張りのビル、非常に古い建物が密集している場所などを避ける必要があります。さらに、災害時の状況によっては、想定していた避難経路が通れなくなることもあるかもしれません。そのため、避難所までの複数の避難経路を、危険箇所を避けるように決めておくことが大切です。

実際に自分の足で歩いてみよう！

地図で確認するだけでなく、家族や職場の人と実際にまちを歩いてみましょう。防災の目線で歩いていると、いつも通っている何気ない道にも、思わぬ危険が潜んでいます。お子さまやご年配の方も含め、いろんな視点からまちを見ることで、自分だけでは気づけない意外な発見があります。

チェックポイント

● 排水溝、側溝、マンホール
水害においては排水溝や側溝があふれ、足元をとられてケガをすることも。

● 古い建物（特に木造建築）

震災時に最も倒壊の恐れがあるのは築年数の古い木造建築の建物。道路に沿って建てられている場合、ルートがふさがれている可能性があるので確認。

● 石垣・フェンス

震災時に倒壊のおそれがあり、特にお子さまの場合頭上から襲ってくることが予測されます。



3. 地域でオリジナルの防災マップを作ってみよう

阪神・淡路大震災においては、瓦礫の下から救出された人のうち、友人や知人、ご近所にお住まいの方から救出された割合が3割を超えるという調査結果（※）もあることから、地域連携の重要性は大きいと言えます。

周囲の人たちと話し合った内容や地域の危険を書き込んで、みんなで情報を共有することでもしもの時の意識向上に繋げることができます。

※「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」
(平成8年11月 日本火災学会)より



いざという時のために…「防災マップ」を作ろう

ご家庭でできる防災対策として、防災グッズの常備や避難場所・連絡経路の確認などがありますが、ぜひ備えておきたいもののひとつが「自主防災マップ」。自主防災マップは、地域の防災情報を前もって整理することで、もしもの時の正しい判断と安全で速やかな避難を手助けするツールです。

今回は当社社員のAさんがご家族で「自主防災マップ」作りを体験。マップの作り方や、実際にやって分かったことをご紹介します。

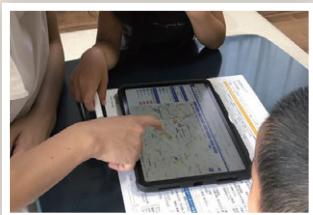


家族でチャレンジする「自主防災マップ」作り体験レポート

- 用意するもの お住まいの地域のハザードマップ、筆記用具、書き込み用の地図

STEP1 まずは事前の準備から

市区町村から配布された「ハザードマップ」を見て、被害想定区域と避難場所の位置を確認しました。避難場所に向かうためにどんなルートがあるのか、複数の経路で調査しました。



まち歩きでは
何に注意して
歩こうかな

STEP2 実際の避難ルートを歩く

防災目線で自宅から避難場所までの道を歩いてみました。このまち歩き調査で、ルート上に危険箇所がないかをチェックし、発見したことを下書き用の地図に書き込んでいきます。



親子で目線が違うから
色々な発見がある！

STEP3 調査して学んだことを整理

現地でチェックした危険箇所や注意すべきことなどを、家族で話し合いながら清書用の地図に書き写しました。書き写す時は情報別にペンで色分けし、整理していきます。

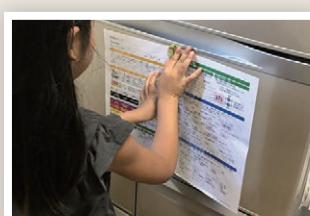


危ない場所を
避けて避難しよう

STEP4 我が家の防災マップが完成

完成後は、日頃から見える場所に貼ったり、非常用持ち出し袋の中に入れたり、すぐに持ち出せるようにしておきます。

家族の人数分コピーをし、各自が日頃から持ち歩くようにするのもおすすめです。



冷蔵庫に貼って
いつでも確認

自主防災マップ作りから学んだ、家族で防災意識をもつ大切さ

長女は来年から小学生になり、一人でいる時間も増えてきます。通学時など一人でいるときに災害があった際にどう行動すればよいのか、家族でルールを決め避難活動を伝える機会として、非常によかったです。

子どもへの災害の危機意識や防災意識を持たせることができこれまでなかったのですが、このツールは備蓄品チェックやまち歩きでの危険箇所探し、お絵描きといった遊び感覚もあり、飽きずに取り組むことができるものだと感じました。

まち歩き時に側溝の危険性を教えたことで、後日お出かけの際には子どもが側溝を指さし「危ないところだね」という言葉を発することもありました。

子どもの成長も目にすることができます、とても貴重な経験でした。今後も、定期的に続けていければと思います。

地図の価値について 防災活動における



01 防災士も推奨！「事前に備える」ことの大切さ



防災士研修センター
代表取締役
玉田 太郎様

日本は様々な災害が発生する「災害大国」です。災害に対して、自分や家族の大切な命を守るために「事前の備え」が大変重要となります。一人一人が災害について正しく学び、備蓄や家具固定など充分な準備を行い、発災時、慌てず適切な行動がとれるよう、平時から災害発生した場合を想定した日常生活を心がけましょう。

自分の町について知ること、それはハザードマップを見るだけでは不充分です。避難経路やリスク要因把握の為には、詳細な町の白地図に直接書き込んでいく事で、今まで思いつかなかった災

害時に有効で適切な判断を手にすることができます。

また近所や町会単位で取り組むことで、実際役立つ情報や「気づき」が充実します。さらに「まち歩き」を行い、避難路やリスク確認と、対処方法を直接見て把握していくのですが、大事なのはそれを定期的に行い、見直し更新していくことです。

安心は自分自身で作っていくものです。その結果、大切な家族やご近所、同僚の命を守ることになります。

02 住民たちの災害意識向上へ。自主防災マップ作成をきっかけに新たなリスク発見も

Q1. 災害時の地図の重要性を認識したきっかけは？

大きな2つの災害を地域が経験し、他人事のように考えていた環境の変化について真剣に考えなければならないと感じようになりました。そして曖昧だった地域の防災対策を確立する必要があると考えたのです。

約150戸の家庭には高齢者も多く、いざという時に迅速な行動を取るのが難しい住民が数多く存在します。また長年この地に暮らす住民たちは、心のどこかに「田口下町地区は安全である」という思いがあり、災害の初期段階で避難するという行動を現実のものとして受け入れられない人が多かったのです。



長野県佐久市田口下町区
自主防災会様

Q2. 地域特有の防災マップが作成できる「自主防災マップ」を活用した際の効果は？

台風19号の際、安全だと思われていた城山という裏山が実は、岩盤の上に堆積物が積もっただけの危険な山であることがわかりました。つまり大雨の際は城山の付近に土砂災害の恐れがあり、こうしたリスクをあらためて目視や地図で確認して意識を高めることができました。

例えば避難場所として住民に知れ渡っている下町公会場は、裏に城山が迫っているため、実は土砂災害の時、危険な場所です。洪水や噴火の際はこの公会場が避難場所となりますが、地震や土砂災害には小学校や児童館に逃げてほしい、というメッセージが自主防災マップを通じてはっきりと伝えられると感じます。

長野県佐久市田口下町区の事例は
WEBサイトで全文公開中



あなたのまちや会社で ゼンリンと共に 地域防災力を向上させませんか？



安全・安心なくらしのために
お住まいの地域の防災活動をゼンリンの地図がサポートします



近隣住民と連携して、地域の危険ポイントを見直す必要性を感じているものの、どこから始めていいのかわからない



なかなかきっかけがなく、備える必要性は感じながら具体的に動けていない

そんな皆さんと協力し、
ゼンリンは自主防災マップをはじめ地図という観点から
防災活動を盛り上げていきたいと考えています。

地域防災活動のお悩み、
ぜひ当社にご相談ください

地域防災活動に関するお問い合わせはこちら
Mail : zenrin-jisyubousai@zenrin.co.jp

ゼンリンのご支援のかたち

地域に特化した防災マップを手書きで



ゼンリン自主防災マップ

いざという時の適切な避難判断を支援するための、オリジナル防災マップ。地域やご家庭で、避難経路に潜む危険箇所や避難時の行動の情報確認・共有に活用できます。

防災教育に活用できるプログラミング教材



まなづぶ

防災教育に活用できるプログラミング教材。お子さまがパズル感覚で避難マップを作りながら、プログラミングの思考を高めることができます。

■発行元

株式会社 ゼンリン <https://www.zenrin.co.jp/>